



Erwin / Levi
Story of The Survey Cops

ADULT ONLY

嘆きの箱庭

SENKEN-TOSHI
STORY of THE SURVEY CORPS
ERWIN / LEVI

嘆きの箱庭

この本は【アリア版悔いなき選択】後if設定過去編です



東門外で
爆発！

事故じゃない
テロだ！

分隊長がまきこまれた！



荷馬車が突然
爆発したらしい



塀が崩れてる
まわりこんで
救出を



エルウィン……っ



火は!?

大丈夫だ
消し止めた!

気をつける
がれきが散乱してる



格好つかない
ところをみられたな

しばらく紫アザで
痛むだろうけど
骨は大丈夫だ



怪我はっつ!?

！
リヴァイ



おまえが
いなくなりでも
したら…っ

おれは…



まったく



部屋で
ブーツぬいでて
クツは途中で…

夢中でつい



…目に見えてるのは
かすり傷ばかりだよ

おまえのほうかひどい
靴はどうした

そっちは大丈夫か

は？
うぬ

はい分隊長

悪いが先に戻る

エルヴィン！

心配してくれたのは嬉しいが
二次被害は増やして
くれるなよ

被害者が俺をかついで
どうすんだっ

おろ…せつ！

あいたた
私を心配するならば
のむから
じつとしてろ

ガラスの破片が刺さってたら
一大事だよ

見てもらうまではだめだ

！



市民に
怪我は無いな

まきこまれたのは
他に
いるか

野次馬は
下
が
ら
せ
ろ

憲兵に連絡を

ただし奴らが
来る前に

われわれで
現場検証を
すませろ

手口の照合をする
必要がある
すぐに報告書の作成を





いいから
じつとしてろ…

…っていうか
あんまり
動揺しないんだな

おまえも

どいつも
こいつも

まあ…少々
くらって
しまったが

このくらいで
音をあげていては
調査兵は
つとまらないよ



なんか
手慣れてる
感じだった



よくある
ことなのか

よくは、ないが
ままあるね

調査兵団に対して
否定的な者は
多いからな



調査兵団は
人類のために壁外を
切り拓こうって組織だろ

なのにこれじゃ
後ろから撃たれた
ようなもんだ…



命を賭けてる
尊さは
ちゃんとみれば…
伝わるはずだ

！
そう
地下の人間は
クソミソに言つときゃ
勝ちつてただけで…



おまえだつて
イカれた組織だと
思つてたんじゃないか



尊さ、ね
確かにわれわれは
人類の為に戦っている

その広報に努め
理解を得る努力は
もちろん
惜むべきじゃない

だがそういう話じゃなく
実際的なことを言うなら

勝られるくらい
大なり小なり
イカれてないと



この場には
いられない

そういう
言い方はよせ…

そんなわけねえたら
まるで
責められるのも
やむなしみたいにい
聞こえる

怒ってるのかい
……われわれのために？


うれしいよ

でも
どうしたんだ



そこまで
知り尽くしては
いないけれど

「おまえらしくない」



リヴァイ、その必要は無い

!



お茶ありがとう
ゆっくり休め



……リヴァイ

おまえ

飲み物になにか混ぜたか?



自白剤

兼

痛み止め



……
一応、理由を先に
聞こうか

は



おまえが悪い……

そんなふう
に気づか
われてば
かりじゃ

ホントの
ところは
聞けねえ
じゃねえ
か



私の本音が
聞きたいの
か おまえは

そうか……



どう考えても
判らねえんだ
俺はおまえを
殺そうとした男だぞ

うん

だが
互いにケジメは
ついたはずだ

私はもう
おまえから
命の危険を感じては
いない

— そいつは
破格の待遇だ
だが俺が



その手を
切り落としていたら
どうした…

立体機動は
トリガーが引けなけりゃ
おしまいだろうが…

それでも
おまえは

なああのとき
あの壁外で
俺はかっとなつて

本気でブレードで
斬りつけた
— 殺すつもりでだ

かまわずおまえを
口説いただろうね

私の手なんて
安いものだよ
そんなの
問題じゃない



…
ちつとは
ヒトよりマシな
巨人殺しの技術は確かに
おまえの役には立てるだろう

だがそんなもの
十人か二十人か
兵の束で代替可能だ

それについては
私には別の意見があるよ
だが…それで?



おとしまえは
つけなきゃならねえ

俺はここで働く
なんでもやる
動く回でも餌でも
かまわねえと思ってる

おまえなら有効に
活用するだろうって
安心してた

だが
エルヴァイン――



誤魔化すな
強情者め!

熟練の立体機動兵の体幹と
咄嗟の反応速度が
ソレを許すわけねえだろ

くそ……薬
きいてんのか?



おまえのその怪我……
俺が斬りつけた手のせいで
受け身がとれなかった
んじゃないかねえのか

体の片側だけハデに
ぶつけやがって

……ふつとばされて咄嗟に
体勢をとれなかった
だけだよ
恥ずかしい話だが



どうして
責めない――!?

責める理由が
ないからだ

それどころか
さっきだって
ためえより傷の軽い
俺を抱えあげやがったり

その理由は
言っただけ

かわりに……手助けしたり
することもゆるさねえ

わけわかんねえ

エルヴィン
正直に
言ってくれ

おまえこそ
俺を——
どう見てやがる

リヴァイ
私にはおまえが
必要だ



リヴァイ、
私は正直に
こたえているよ

長くねえ
付き合っても
見てりやわかる…

おまえはたいした男だ

こんな目に合っても
大丈夫だと
いいきるほど
調査兵団のために
カラダ張る覚悟
もつていて

その頭脳と腕前と
行動力…怖え程の
能力ぜんぶ
「人類」に捧げんのを
いとわねえ

学も力も崇高な目的も
ある男が

なぜ

ゴロツキのひとごころしを
許し引き入れ
気を遣ってまで

ココにおいでいる？

おまえの想いに
見合うほどの
なにか
俺にある

俺はどうやったら
おまえの想いに報えるんだ……？

リヴァイ……！

こんなに嬉しいと
思ったことはない

……そんなふうに
思ってもらえるとは
思わなかった

こんなにまっすぐに
尽くして
もらえるなんて――

尽くしてるか――俺が？

おまえといると
ますます
わからねえ

リヴァイ、それは
罪悪感かい？

そして
怖がっているんだね

ひきくらべて私
完璧な男に
したてあげて

おまえは
自分を責めてるんだ
ずっと

壁外でのことを
背負ったままで

自分がさもないも
できなかったように
思い込んで

無力感に苦しんでる



おまえは
本当に強くて
…強いから

身体のように
心も頑丈だと錯覚してるんだ

…ぬかすな
俺はそんな弱くねえ
人の死なんかいくらでも
見てきた

手だって
とつくに血で汚れてる
いまさらそんな

リヴァイ

対象の死と
家族の死は、違う



私に盛ったこのヤクは
そもそも
なんで用意してた

自分自身が
苦痛から…逃れたかった
んじゃないのか

責めてるんじゃない
勘違いするな

3

これはうちのヤクでは
なさそうだが

兵士が薬物を使うことを
わが調査兵団は
規定内で認めている
それほど過酷だからだ

…知ってるだろう
医局で見なかったか
その為の部屋もある

…俺は
そういう
逃げはしない

そうだよ
おまえは逃げない

だから私に盛るぶんがあった
—それが
証明してるじゃないか

おまえは
逃げずにちゃんと問いただして
戦って

私に答えを求めている

そして

そういう——
心の蕩々しさを
私は頼みにしてる

そういうおまえが
欲しいんだよ

……
——どうだ…リヴァイ
これは本心だよ

はは…
ヤク、め

言わなくていいこと
まで言いそうだ

リヴァイ
来てくれ

…すごいときどきしてるだろ

私にだって
抱えたまま
どうしようもない
記憶や感情がある

だがそれを
目の前に置いたままでは
冷静な決断を下せない

だから

だから

不用意に蓋を開けてくれるな

リヴァイ

……それでも

私は…俺は

俺の中にある箱庭を
壊してくれる
純粹な力が

俺の枠外からきた人間が、

おれのような
ひとでなしでは
ない人間が、

欲しいんだと思う

いわせるな…くそ


リヴァイめ

俺は、そんな人間じゃねえ
おまえが思うような、

リヴァイ
それを決めるのは俺だ

おまえは俺にとって
必要だ

これは本心だ



でなければ、この命、やすやすと賭けたりはしない

リヴァイ



痛いのかエルヴィン

うるさい
リヴァイ…

はあっ

はあっ
はあっ

ここから
逃げるなら今だ

リヴァイ
一度だけ言うぞ



…俺はきつと
ひびくことをする

もう我慢できそうにない…
おまえは…男色家
じゃないだろうが

はあ

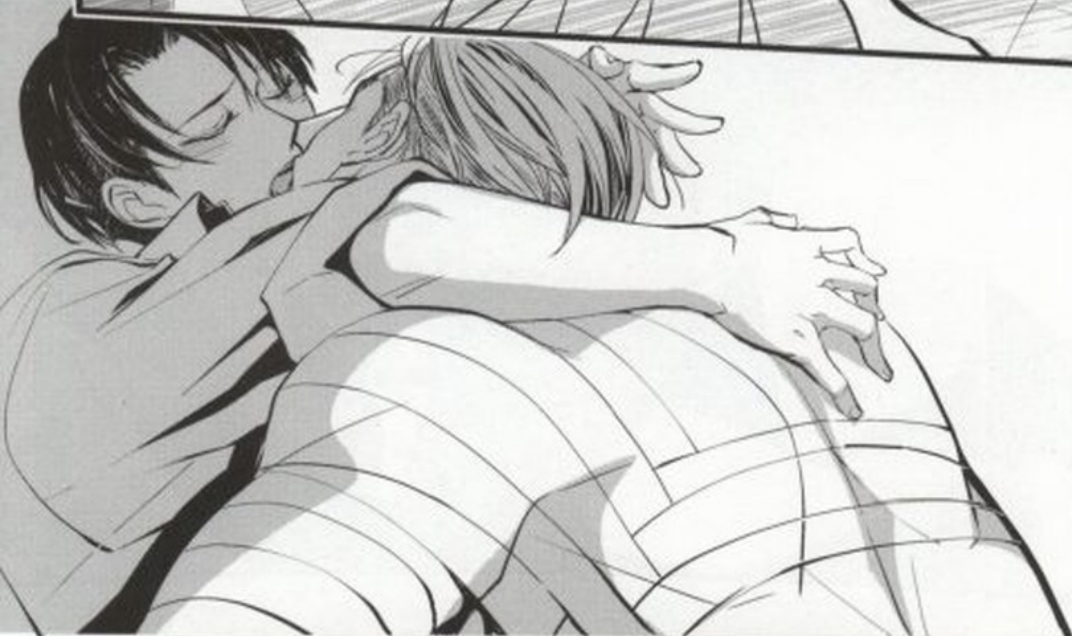
はあ



ヤク盛った段階で
んなもん
覚悟済みだバカ

そ…うか

そうだ





や

や
や...や
や

あ
あ
で、き、お、じ...

エ...る

じ...じ

ひと呼吸ま



フニ

は



ん

ハハハ



エ、エル...っ

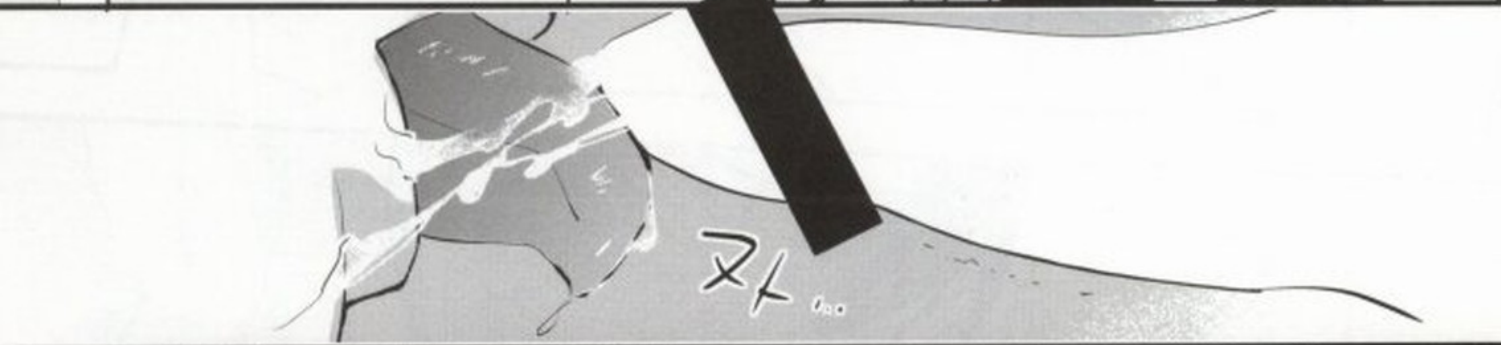
べろん

わ、おい待...っ

や、やっぱり...さ、まては...っ

いきなりすぎ、る...っ

.....っ





……わるくない

まあ

まあ

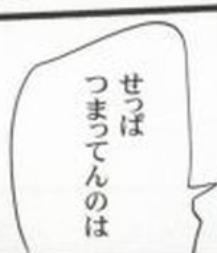


つあ……くそ
ぶっかけ

ちまったろう…が

だめだうて
聞けよ…クソ……

はっ



せつば
つまってんのは

ぼ…ばか

しんきん



なら一緒に

ほ
ろろ
いん
いん



はなせ

出さなきゃ
苦しいまんまだろっ！



てめえのモンだろうに…

俺を優先させやがって

は
ろろ
いん
いん



んんんんんん……

はあ

はあ

はあ

はあ

ん……



もっと早く

たりない

はあ

はあ

強へ

はあ

んんんんんん

んんんん

んんんん

んんんん





!?

てめ……使わないって

持っていないとは
言っていない



せつかくだ

は、

楽しもう

……

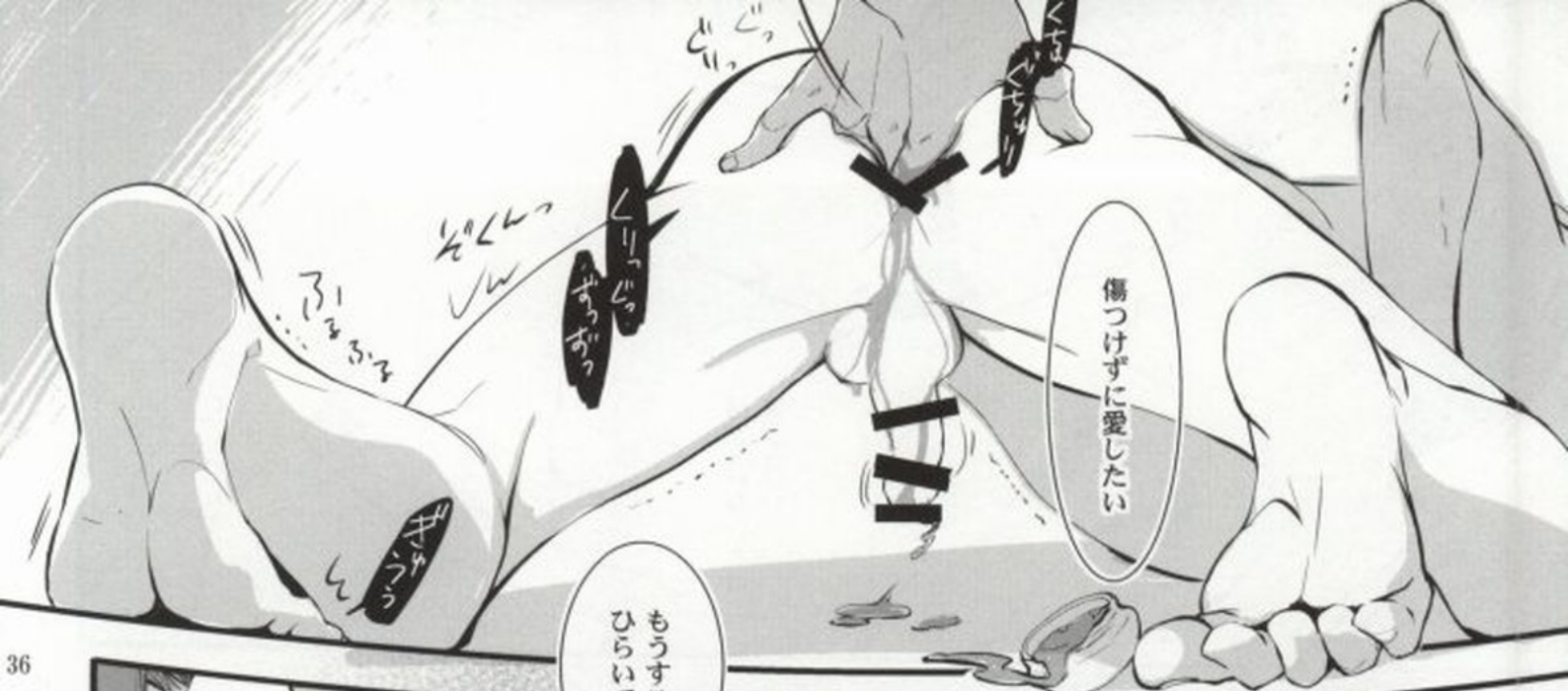


……

入れる

いいね

……好きにしろ……



傷つけずに愛したい

もふもふ
ひびひび



むムリ……っ



う



ほら…入る……

女……

いちいち

ん……

ひう、な
ひう

ガク
ガク

い



う、あ、あ……あ……

はいつた……

うう

たまらないよ

はっ

なんか

グラグラ…する

てえ……

い……



はっ

ガッ

はあっ

はあっ

ああ...う

う

ああ...う

ズン

ああ...う

ああ...う

ああ...う



突け

もじもじ

もじもじだ

俺も

たまん…ねえ

はん

あぁあぁ

あぁあぁ

はん

あぁあぁ

はん

はん

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

かたん

ゆさ

ゆさ

はん



は
—
は
—

…正直だっているか

……もう

は—あ

最高だった

は—あ

もう一回いいかい？



Miniature garden in my Mind



ああ…
気持ちのいい朝だね



頭…いってえ…

うう…



…おい…
どうなってる
こいつは…

ちつとも
ぬけてねえ…





いってえ

すこしは片付けろよ
つまづいただろうが…

いや足腰が
立たないのは
昨晚のせいだよ

薬のせいだとはいえ
やりすぎた
反省している…

いいよ
そんなの
盛ったのは俺だ…

んー？



— 昨日のテロ

俺を狙ったもんか？

こういう特殊な配合の
爆薬を好んで使う
組織を知ってる

おんがうで



そいつは――

やつらには
わかりはしねえ

まくり

それに
押し通せば
余計反発を招く
そういう論理だあそこは

本当は俺が
ちやんと
ナシつけなきゃな

…リヴァイ

わかつてるよ
エルヴィン

迷惑をかけるのも
もう遠慮したり
しねえ

…力を貸してくれ
エルヴィン

――しんじまった
あいづらは
出たがってたけど

俺たちの
居場所だった
…箱庭を

壊すようで

足踏みしてた

でも

すでに想いはここにあるなら

壊してでも進む

そういう生き方を俺は選ぶ





AoT Fanficbook by
Senken-Toshi